

24日 日曜

ヘブル



11:32 これ以上、何を言いましょうか。もし、ギデオン、バラク、サムソン、エフタ、またダビデ、サムエル、預言者たちについても語れば、時間が足りないでしょう。

11:33 彼らは信仰によって、国々を征服し、正しいことを行い、約束のものを手に入れ、獅子の口をふさぎ、

11:34 火の勢いを消し、剣の刃を逃れ、弱い者なのに強くされ、戦いの勇士となり、他国の陣営を敗走させました。

11:35 女たちは、死んだ身内の者たちをよみがえらせていただきました。また、ほかの人たちは、もっとすぐれたよみがえりを得るために、釈放されることを拒んで拷問を受けました。

11:36 また、ほかの人たちは嘲られ、むちで打たれ、さらに鎖につながれて牢に入れられる経験をし、

11:37 また、石で打たれ、のこぎりで引かれ、剣で切り殺され、羊ややぎの皮を着て歩き回り、困窮し、圧迫され、虐待されました。

11:38 この世は彼らにふさわしくありませんでした。彼らは荒野、山、洞穴、地の穴をさまよいました。

11:39 これらの人たちはみな、その信仰によって称賛されましたが、約束されたものを手に入れることはありませんでした。

11:40 神は私たちのために、もっとすぐれたものを用意しておられたので、私たちを抜きにして、彼らが完全な者とされることはなかったのです。

人類には古くから戦いや事故・事件などで悲惨な死にかたをする人々は大勢いました。信念のゆえに

死を選ぶ人々もいました。日本でも殿様のために切腹したり、天皇のためにと特攻で死んだ人々もいます。これらの人々とここに記されている信仰の勇者たちとの違いは、永遠の希望すなわち「さらにすぐれたよみがえりを得る」という希望に関することです。

ここに記されている勇者たちは旧約の聖徒たちに加え、中間時代（紀元前1～4世紀ころの聖書に記されていない時代）の殉教者も考えられていると思われます。彼らは聖書や聖書に命じられている教えを捨てなかったため、ペルシャのアンティオコス・エピファネスなどのもて拷問で殺されました。彼らの信仰と犠牲がなければ、イエス様が救いを成し遂げる歴史的基盤がなくなっていたでしょう。

私たちは、このような殉教者たちの信仰を忘れないようにしましょう。神の福音である永遠の救いはそれほど尊いもの、命にかけても守るべきものなのです。そのような尊い救いを私たちはいただいているのです。

殉教者たちはすばらしい信仰を持っていましたが、その希望が「全う」されるのは、イエス様の十字架と復活そして再臨によらなければなりません。ですから私たちも終末の再臨において、彼らと共に、「すぐれたよみがえり」を全うしていただけるのです。

この世にはさまざまな苦しみがありますが、「キリスト・イエスの愛から私たちを引き離すものはない（ローマ8:39）」との確信を持ちましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

